

「出題の意図」

選抜区分	2023年度（選抜区分：学校推薦型選抜） 法学部 法律学科及び政策科学科（科目名：小論文）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>1 課題文選択の背景</p> <p>出典は、福田充『リスクコミュニケーション——多様化する危機を乗り越える——（平凡社新書996）』（平凡社、2022年1月）である。本書は、危機管理学を専門とする筆者が、新型コロナウイルス、自然災害、テロリズム、少子高齢化などの多様なリスクを抱える社会において、私たちが危機とどのように向き合い、どのようにリスクコミュニケーションに関わるべきかを考察したものである。本問では、筆者がリスクコミュニケーションの新たな問題と指摘するフェイクニュースとポスト・トゥルースについて論じた箇所を取り上げた。</p> <p>課題文で筆者は次のように主張する。人は、ある情報を正しいと認識した場合はそれを「ニュース」として処理し、間違っていると認識した場合は「デマ」として処理するが、その情報が正しいかを自分自身では判断できない場合は、他者とのコミュニケーションを通じて真偽を判断しようとする。この過程でうわさ話や流言が発生するが、現在では、デマやうわさ話ではなく「フェイクニュース」という概念が使用されるようになった。インターネットやSNSが普及した社会でフェイクニュースが蔓延すると、ニュースとフェイクニュースの判断がつかなくなってしまう。これがポスト・トゥルース社会である。そこでは人は、ニュースとしての真偽よりも、自分がそれを好きかどうかという感情を優先するようになる。</p> <p>2016年のアメリカ大統領選挙をきっかけに、フェイクニュースとポスト・トゥルースが注目されるようになった。その背景にはインターネットメディアの発達があるとされており、情報リテラシーの向上が強く求められている。こうした状況下で、筆者の主張を正確に読み取った上で、フェイクニュースとポスト・トゥルースの関係や分断社会の原因とその対策について受験生に考えてもらうことが、出題の狙いである。</p> <p>2 受験生に何を望むか</p> <p>まず、上述した筆者の主張を正確に理解し、適切にまとめる力が求められる（読解力）。次に、筆者の主張を踏まえて、これまで中学や高校で学んできた知識を総動員して、論理的・説得的に、ポスト・トゥルース社会における分断の原因とその対策について考え、かつ自分の言葉で表現することが求められる（自説展開力）。</p>